



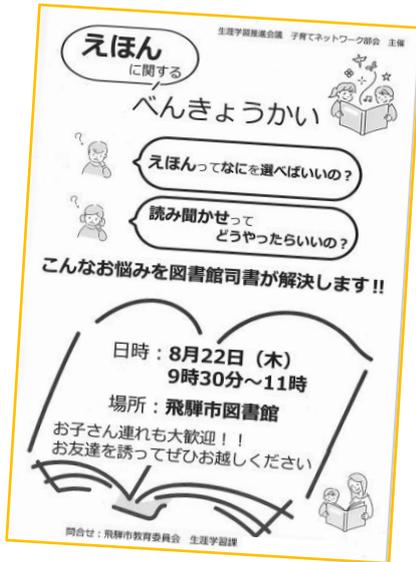
# 飛騨っ子



令和6年9月18日発行 NO6  
 飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係  
 家庭教育推進専門職：水口 悟  
 TEL: 0577-33-1111 (内線 235)  
 E-mail: mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp

## 夏休みの取組

< 通信【飛騨っ子】 >



- ◇ えほんに関するべんきょうかい 講演会型 + 体験型
- 主催: 飛騨市子育てネットワーク部会 ○期日: 8月22日(木)
- 対象: 部会員等 ○場所: 飛騨市図書館 ○講師: 図書館司書

飛騨市子育てネットワーク部会(社会教育委員による部会)の趣旨は「子育てに頑張るママやパパ等をみんなで支える地域づくりを推進するため、子育てに関わる各種団体の連携や協力できる体制を整えることを目指し、情報交換や研修会を開催します」です。

今回は、部会員でもある地元の図書館司書をお招きし、研修会(①なぜ読み聞かせをするのか ②本の選び方 ③読み聞かせ体験)を開催されました。



< 職員による読み聞かせ >



< 読み聞かせ後の交流会 >

- ・絵本の読み聞かせで育まれるものは ...
- (1) 絵本・本の世界を楽しむ, 感動を共感する
- (2) 言語力・読書力の獲得 (3) 人間性の醸成



- ・調査から ...
- 子どもの頃に読書活動が多い成人ほど, <未来志向> <社会性> <自己肯定> <意欲・関心>, <文化的作法・教養> <市民性> のすべてにおいて, 現在の意識・能力が高い 国立青少年教育振興機構 報告より

司書の方が、「絵本(読み聞かせ)は、子どもの発達に応じて有効に使えます。そして、将来の豊かな人生につながります。」「地域の人たちが赤ちゃんを連れてよく図書館に来てくださいます。」「絵本は大人のニーズも増えているんですよ。」と、絵本の大切さや図書館の様子を話してくださいました。思わず、図書館に足を運びたくなります。

実際に司書の方による読み聞かせが始まると、みなさんすっかり前のめり。「読み聞かせに‘きまり’はありません。自分の好きなように読むことが大切です。」と司書の方が話されました。

さあ、次は自分たちが読み聞かせをする番です。グループに分かれ、読み聞かせが始まりました。聞いている人たちは、とても気持ちよさそうに絵本を見ている。交流会では、「聞いているときは、‘こんなにも絵を見ているんだな’と、改めて気づきました」「聞くのって、すごく楽しい!」など、感想が出されました。

### <参加者の感想>

研修後、4冊の本を借りて帰宅しました。「かばくん」「とこやにいったライオン」「ぐるんぱのようちえん」「もりのおふろ」です。その夜に、わが子に読み聞かせをしました。嬉しそうに絵本を選び私の声を聞いてくれました。いろんな話をしながらゆっくり過ごしました。改めて子どもの成長を感じ「借りてきてよかったな~」と思ったところです。

◇ 下呂市立小坂中学校 子ども睡眠健診プロジェクト～生徒会×PTA×東京大学 コラボ～  
 基本的な生活習慣 自立心 家族の大切さ 講演会型 + 在宅取組型



<熱心に視聴する生徒と保護者>



<講演後、実践カードに記入>



<PTA 会長さんの思い>

- 期 日:令和6年7月16日(火)～夏休み
- テーマ:見つめ直そう! 私と家族にとっての大切な睡眠  
実践しよう! 心と身体のための睡眠方法
- 対 象:生徒および保護者 ○講 師:東京大学 特任講師

《取組の流れ》

①親子で睡眠(時間・リズム・質)測定をする。②学校と家庭が課題(テーマ)を共有する。③親子で講演を視聴し睡眠改善に向け各家庭で取り組む。④各家庭の取組(夏休み)を生徒会(生徒同士)や保護者同士で交流し、今後の取組に活かす。

昨年に続き、2回目の取組。この取組のすばらしさ・楽しさは、コラボにあります。その中でも、学校と家庭のつなぎ役を生徒会が務め、親子睡眠健診プログラムで学び得た内容を自分自身はもちろん、家族の睡眠改善について考え取り組む機会としている点です。また、保護者の皆さんが積極的に測定に参加し、子どもたちと一緒に睡眠について学ぶ姿勢が、すばらしいです。

睡眠の大切さは、子どもたちだけの課題だけではありません。お父さんお母さんが元気に働くためにも、お爺さんお婆さんが元気に生活するためにも睡眠は大切です。中学生が自らの睡眠を改善(管理)する姿勢が家族みんなに広がったり、家族みんなの健康についてアドバイスしたりする姿は、とても頼もしいです。

自ら主体的に家族に働きかける体験は、将来自分が親になったときにも活かされる貴重な経験です。

<PTA 会長>

一生健康に過ごすことの大切さを改めて感じています。この研修が、家族みんなでお互いの睡眠を高め、家族みんながお互いの健康を守り合う姿につながることを願います。

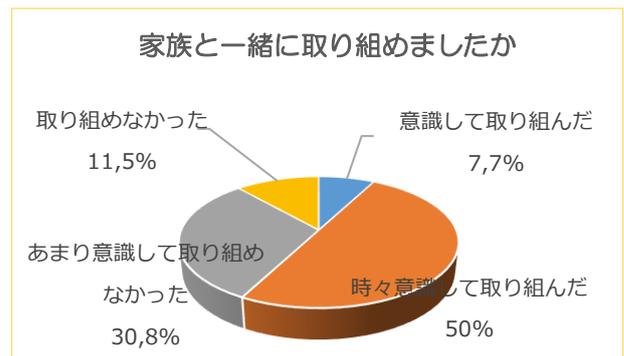
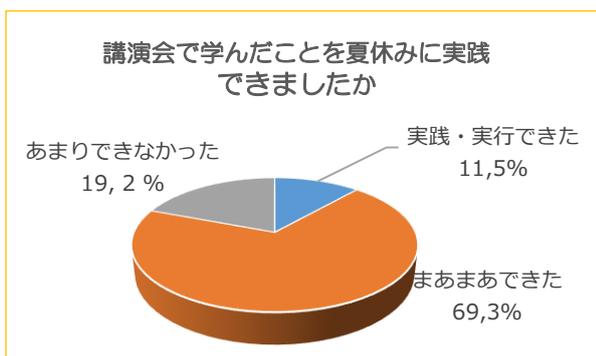
<保護者>

- ・親と子の睡眠パターンは似ているということが分かり、家族で協力し合いながらみんなの睡眠(健康)を大切にしていこうと思いました。また、保育士として若いお母さん方にも睡眠の大切さを伝えていこうと思いました。
- ・今回の講演を親子の共通の話題として聞くことができ、「帰宅してからの仮眠は20分以内にはしないといけない」「寝る20分前にはテレビやタブレットは見ない」など、話題にすることができました。具体的な資料に基づく講師の方のお話は説得力があったようで自分から改善案を話してくれました。



<夏休み中の取組について 対象:中学3年生>

- ・良く眠れた日とあまり眠れなかった日では、お手伝いの効率に差がでた。
- ・遅く寝たり起きたりする習慣がついてしまうと、いざ早く寝よう・起きようとしてもなかなかできない。



◇ 高山市立荘川小・中学校 白山登山 体験活動参加型 自立心 自制心 家族の大切さ

○主催: 荘川町まちづくり協議会(子ども会) ○期日: 8月10日(土)~11日(日) ○対象: 荘川町民(家族)

○ 白山ユネスコエコパークに登録

荘川町全域は、平成28年に「白山ユネスコエコパーク」に登録されました。町内から白山を見ることができる場所は限られていることや地域の方々に白山をより理解していただくために、白山ユネスコエコパーク推進事業として白山登山を開催されました。(3回目)

親子また家族で参加している方々が大変多いことに驚きました。参加者のある方は、「自分も小さい頃に親と白山登山した経験があり、今度はわが子と同じ経験を試してみたかった。」と話されました。



< 10日 夕日を見つめる家族 >

○ 1日目

午前9時、白山市別当出合から参加者22名とガイドの方4名による白山登山が始まりました。天候は2日間ともに晴れの予報で、すばらしい眺望が期待されます。

一泊の登山となれば背負う荷物はとても重い。わが子にもしっかり責任ある荷物を背負わせながらも、お父さんやお母さんの背負うリュックはずっしり重い。



< 11日 御来光に歓声! >

午後4時、山頂の御前峰(ごぜんがみね)から見える360°の眺望。青い空と一面の雲海と浮かび上がる山々。何と荘川のみちを発見! きっとあれがダナ高原・・・, その下に見えるのが中部縦貫自動車道・・・そして、こっちがひるがの高原, その向こうが鷲ヶ岳スキー場・・・山頂から、遥か遠くに見える‘わが町’を見つけ気持ちも最高峰です。

午後6時を過ぎると、壮大な雲海の向こうの日本海に太陽が沈みかけ、沢山の人が時間の経つのを忘れ見つめています。空を見上げればいつの間にか、月がくっきりと姿を現していました。



< 全員登頂! 御前峰 2702m >

○ 2日目

午前3時、起床。白山室堂ビジターセンターを出発し御来光をめざして歩き出します。満天の星空にオリオン座がくっきりと見え、一瞬の流れ星。「結構、流れてますね。」とガイドさん。

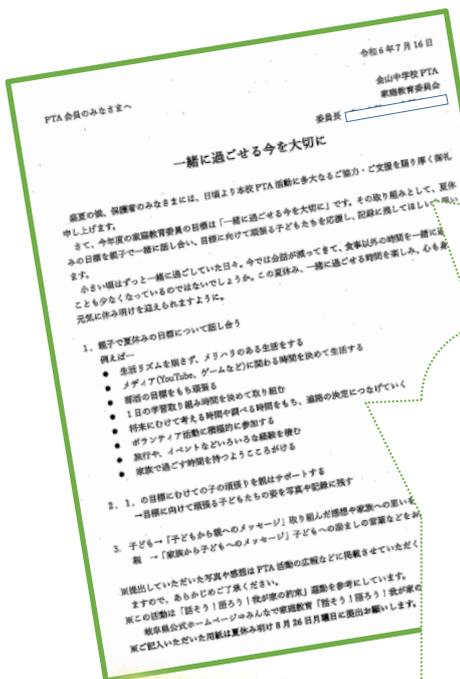
約1時間で山頂に到着。眼下には見渡す限りの雲海が続いています。そして、薄暗い雲海の向こうに山々の形が浮かび始めます。右から、御岳山・乗鞍岳・槍ヶ岳・薬師岳・・・, 凄い!



親子(家族)一緒に歩き通した2日間。一緒に見た白山の風景。天候に恵まれた感動と笑いの2日間でした。子どもたちはよく頑張りました。疲れがピークに達する中で、自分の荷物を整理すること、時間に合わせて動くこと、暗い山道を登ること等々、日常にはない力が要求されました。家族の皆さん、よくわが子と白山登山に出かけました。言葉にはならない親子(家族)のコミュニケーションが沢山ありました。すばらしい!

子どもたちがすばらしい体験ができたのは、家族皆さんの普段からの支えによるものです。また、あたたかな地域コミュニティの賜物です。子どもたちが成長し「親子(家族)一緒に白山に登りたい!」と思う日が来るのが楽しみです。白山ユネスコエコパーク推進事業は、地域学校協働活動として家庭教育を推進しています。

- ◆ 下呂市立金山中学校 一緒に過ごせる今を大切に 家族の大切さ 自立心 在宅取組型  
○主催:PTA家庭教育委員会 ○対象:全家庭 ○期間:夏休み



### <R6 家庭教育委員会の目標> 一緒に過ごせる今を大切に

夏休みの目標を親子で一緒に話し合い、目標に向けて頑張る子どもたちを応援し、記録に残してほしいと思います。

小さい頃はずっと一緒に過ごしていた日々。今では会話が減ってきて、食事以外の時間を一緒に過ごすことも少なくなっているのではないのでしょうか。この夏休み、一緒に過ごせる時間を楽しみ、心も身体も元気に休み明けを迎えられますように。

### <取組の方法>

- 1 親子で夏休みの目標について話し合う。

**例)** ●メリハリのある生活をする ●部活の目標をもち頑張る ●学習の取組

時間を決めて取り組む ●将来に向けて考える・調べる時間をもち、進路決定につなげる ●ボランティア活動に積極的に参加する ●旅行やイベントなどいろいろな経験を積む ●家族で過ごす時間をもつよう心がける

- 2 1の目標に向けての子の頑張りを親はサポートする  
→ 頑張る子どもたちの姿を写真や記録に残す
  - 3 親子お互いのメッセージ(わが子へ・家族への思いなど)を記入する。
- \* この取組は、県の「話そう!語ろう!わが家の約束」運動を参考にしています。



紹介されている目標の例は、バリエーションが広くて楽しい。実践カードには、写真や文字でコミュニケーションがたくさん記録されています。わが子が目標に向かって頑張る姿を一緒に取り組んだり、ほどよい距離感で見守ったりしながら、メッセージを伝えています。それぞれの家庭ならではの取組やコミュニケーションが、素晴らしい。

### 《実践カードより》



#### ◇ 目標：ボランティア活動に参加する

- 子どもから親へのメッセージ

ボランティアに参加すると普段だと関わらない小さい子や大人と関わる機会ができ、参加して良かったなと思いました。これからも参加できるときには参加したいです!!

- 家族から子どもへのメッセージ

ボランティアの意味(自発的に!!、時間と労力の無償提供、社会奉仕)を理解して、今後もたくさんの人にに関わり、自分の成長につなげてほしいと思います。何事も前向きに!

